

令和7年度

学校関係者評価報告書

令和8年3月

山梨県立宝石美術専門学校

令和7年度 学校関係者評価報告書

山梨県立宝石美術専門学校では、関係業界、経済団体、高等学校校長、保護者等からなる「学校関係者評価委員会」を設置し、学校が実施した自己評価の結果に関する評価を行い、多くの貴重な御意見等をいただきました。

今後とも、学校関係者評価を計画的、継続的に実施し、本校教育の質の向上、学校運営の改善強化に向けて取り組んでく所存です。

1 学校関係者評価委員名

柳本 力 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	理事長	
井口 泰宏 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員長
深澤 陽一 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
後藤 晃一 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
詫間 康二 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
今澤 賢一 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
小池 浄 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
田中 由美 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
鈴木 竜樹 氏	協同組合山梨県ジュエリー協会	人材育成委員会	委員
花田 智 氏	甲府商工会議所	事務局長	
小笠原 宏 氏	山梨県立韮崎高等学校	校長	
若月 栄治 氏	保護者（後援会会長）		
山本聡一郎 氏	山梨県産業政策部産業振興課	課長	

2 評価委員会の実施

開催日 令和8年2月26日（木）

場 所 宝石美術専門学校 8F 多目的教室

3 実施方法及び公表

評価委員会では、学校が実施した「自己評価」の結果及び活動状況、アンケート結果について事務局から説明。

その後、委員の皆様には、基準項目毎に次の4段階で評価をいただき、その平均値を記載。

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

なお、評価の観点は次の項目によるものとしました。

- ・自己評価の内容が適切か
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策などが適切か
- ・学校の重点目標や具体的方策などが適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

これらを本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かして本校教育水準の向上に努め、またホームページ等に公表します。

4 学校関係者意見・提案等

【1. 教育理念等】

評価平均：3.8

現状の取組及び自己評価
<p>○教育理念、教育目標、教育方針は定められており、学生便覧、ホームページ等で公開するとともに、オープンキャンパスやリモート説明会、ガイダンス、学校運営連絡会議等の機会を通じて周知を図っている。本年度は更に3つのポリシーを策定し、学生が身につけるべき資質や教育課程の編成・実施の方針、入学者に求める学力などを明確化した。</p> <p>○開校以来、より充実した教育内容を目指すとともに、社会の変化や将来の方向を考慮した学校改革を行い、「専門知識・技術の高度化」などを目指し取り組んでいるが、加速する少子化、これに伴う入学定員の確保などを踏まえ、引き続き本校に求められている社会経済のニーズ等をしっかり把握し、反映していきたい。</p> <p>○学則等は整備されており、改正が必要な場合にはその都度行うこととしている。</p>
学校関係者意見・提案
<p>○現在、県ジュエリー協会組合員の大半が、従業員の高齢化、人手不足の深刻化が進んでおり、宝石美術専門学校において専門知識や技術を習得した人材が、県内就職をして頂くことを、おおいに期待している。</p> <p>当協会では、人事育成に重点を置くべく、技能五輪「装身具加工部門」の山梨県開催の誘致、人材育成基金の設立などをしており、宝美生にも大いに山梨で挑戦、技術の向上を目指せるよう、制度の策定を進める所。しいては、業界と宝美との連携を更に深めるため、当組合の人材育成委員会にも先生方に参加して頂き、相互の発展に繋げて行きたいと考える。</p> <p>○貴校においては、明確な教育理念のもとで全ての教育活動が展開されており、その理念が教職員に十分に共有されている点を高く評価したい。教育方針が日々の実践に結びついていることは、学校運営における大きな強みである。</p> <p>○教育理念等について、新たな3つのポリシーを策定するほか、様々な媒体、機会を通じて周知を図っている。</p>

現状の取組及び自己評価
<p>○教育活動等に関する情報は、ホームページやインスタグラムでの発信等で積極的に公開している。また、宝美祭などの行事や技能五輪の結果などを報道機関に情報提供している。</p> <p>○危機管理マニュアル及び防災計画の整備、防災訓練の実施など、学生及び教員の危機管理意識や防災意識の高揚に努めている。また、消防法に規定する必要な設備を整えており、定期点検も実施している。防犯カメラ3台設置、出入り口のオートロック化、警察官立ち寄り所の認定、防犯講座の開催などに加え、学校出入り口の入退室管理や学生がスマホ等での解錠ができるシステムを本年度新たに導入した。</p> <p>○ホームページについては、令和5年度にスマホ対応へ改善及び掲載内容の更新を行い、利用者が必要とする情報へ円滑にアクセスできる構成へと改善した。</p> <p>○職場研修等を実施するなどして職員意識を醸成し、体制の整備を図っている。</p> <p>○教育理念等に沿った学校の方針は共有されており、本年度は更に3つのポリシーを策定し、学生が身につけるべき資質や教育課程の編成・実施の方針、入学者に求める学力などを明確化した。</p> <p>○週1回行われる学科会議において、また特に重要な案件については校長を含めた職員会議において、組織的な意思決定がなされており、学校運営は有効に機能している。</p> <p>○本年度、情報システムを更新し、更に業務の効率化が図られている。</p>
学校関係者意見・提案
<p>○インスタグラムのストーリーをもっと上げた方が良いと思う。</p> <p>○主にホームページやインスタグラム等の発信内容を見る限りでは、教育活動や学生作品の紹介が丁寧に行われており、学校としての取り組みや魅力は十分に伝わってくるものと感じている。一方で、広報媒体から得られる情報は対外的な側面が中心となるため、実際の教育現場の運営状況や組織体制、日常的な指導環境等については外部からは判断が難しい部分もある。そのため、総合的な評価を行うには、より具体的かつ客観的な情報の共有が望ましいと考える。</p> <p>○非常勤教員が多い体制の中で、情報共有をどのように工夫しているかは重要な課題である。Teams等のICTツールを活用することで、連絡の即時性や情報の一元化がより進むと考える。本年度より情報システムを更新されたとのことで、すでに取り組んでいる可能性はあるが、引き続き効率的な共有方法の検討と運用の改善を期待したい。</p> <p>○防犯カメラの設置や出入り口のオートロック化などを新たに導入し、学生や教員の安全確保に取り組んでいる。</p>

現状の取組及び自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ○教育理念等に沿ったカリキュラムを策定し、必要な学習時間を確保するとともに、シラバスに目標、内容を明示している。 ○カリキュラム編成時に、教育到達レベル確保のための学習時間を設定している。 ○学生が就職を希望する職種（業務）に向けて、高度な技能の習得が可能となるよう選択科目を設置、高度な技術を有する外部講師を招聘し指導を充実させている。 ○企業研究の一環としてインターンシップは業界と連携して実施している。 今年度は受け入れ企業を増やすことができた。 ○教員はシラバスに基づき授業を実施している。 ○教育目標の実現のため十分な要件を備えた教員を確保している。 ○高度な技術を有する職人を非常勤講師として招聘し、産地の特質を生かした指導を充実させている。 ○本年度、「山梨ジュエリーと水晶工芸」「ジュエリーを楽しむ8海の不思議」「館蔵品コレクション展」などのミュージアム主催の企画展に加え、水晶美術彫刻協同組合主催の「伝統をつむぐ作品展」などを開催し、前年度より25%増の来館者数となっている。 ○（成績）基準は規程等に定めており、それに基づいて職員会議で判定を行っている。 ○市場や業界の状況を勘案し、毎年度カリキュラムの作成、見直しを実施している。 ○自己研鑽だけでなく職層別研修やWeb研修など多様な研修等の機会を設け、能力向上に努めている。また、本年度から授業アンケートや研究授業を実施し、授業改善に繋げることにより教育の質の向上に努めている。
学校関係者意見・提案
<ul style="list-style-type: none"> ○宝飾産地・山梨という地域性を活かした教育や、実践的な学びへの満足度も高く、本校ならではの専門性と特色が確立されていると感じた。一部、情報発信や設備運用面など改善の余地は見受けられるものの、総合的に見て教育活動は非常に適切に運営されており、今後さらに発展が期待できる学校であると評価する。 ○専門性の高い分野であることから、長年同じ非常勤講師が継続して指導に当たっている点は、教育の安定性や高度な技術の継承という面において大きな強みであると評価できる。その一方で、体制が固定化することにより、新たな視点や外部からの刺激が入りにくくなる可能性も否定できない。今後のさらなる発展を見据えるのであれば、継続性を尊重しつつも、風通しの良い組織運営や多様な視点を取り入れる仕組みづくりが重要になるものと思われる。 ○産地の手作りの物作りと、海外では日本ではできない様な、機械による物作りも

<p>行われている。対比として、海外の物作りの現状などを学ぶ機会があれば視野も広がるのではないかと思う。国際基準など（改めて、手作りの良さを知れる）</p> <p>○企業の製造現場とは若干かけ離れた教育になっていないか。海外の製造現場との違いや遅れを感じる所がある。</p> <p>○キャリア教育やインターンシップを計画的かつ継続的に実施し、学生が社会を主体的に捉える力を育てている点は高く評価できる。社会変化が激しい中、教える側にも新しい知識や視点が求められるため、今後も教職員の資質向上や外部機関との連携を積極的に進められたい。</p> <p>○職人など外部講師を招聘することにより、学生に高度な技術の習得機会を提供している。</p>

【4. 学習成果】

評価平均：3.7

現状の取組及び自己評価
<p>○学生に業界への就職を働き掛けると共に、学校において企業説明会の開催、ジュエリー協会青年部との交流会などを実施し、関係業界への就職率の向上に務めている。</p> <p>○検定、試験等の合格率の向上のため担当教員が連携して組織的な指導体制を組んでおり、毎年一定の合格者を出しているが、今後も合格率向上に努めていきたい。特に技能五輪全国大会では、本年度金賞を受賞するなど成果が現れた</p> <p>○休学者等は、体調不良や成績不振、また退学者は体調不良や進路変更などが理由であり、低減策を講じることは難しいが、支援が必要な学生については、教職員間で情報共有を図り、きめ細やかに対応をすることにより未然防止に努めている。</p> <p>○令和5年度にジュエリー協会にも御協力頂き、卒業生の在籍調査を行った。今後は一定期間毎に卒業生へのアンケートを実施する予定である。</p>
学校関係者意見・提案
<p>○技能五輪全国大会での金賞や敢闘賞、全国レベルでの入賞で先生方学生さんたちの努力と熱意が結びついて、素晴らしい結果だと思う。産業や学校の未来が広がった。優秀な学生はじめ多くの卒業生が、産地に残って力を発揮していくようなしくみが産業に必要ではないかと思う。</p> <p>○卒業生のアンケート調査などを実施予定とのことだが、あわせて企業の定着率なども調べてはどうか。</p> <p>○小中高を通して全国的に不登校が大きな課題となっているが、明確な解決策が見出しにくいのが現状である。貴校においても様々な支援・配慮を行っているが、スクールカウンセラーなど第三者的な支援資源をさらに効果的に活用することで、より多様な学生のニーズに応えられるのではないかと考える。</p> <p>○技能五輪全国大会で金賞や敢闘賞を受賞するなど成果が現れている。</p>

【5. 学生支援】

評価平均：3.7

現状の取組及び自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ○学生に対して公平、平等に対応している。 ○各担当だけでなく教員間で情報共有し、学修に関する支援を実施している。 ○学生への情報提供、個別相談等に加え、企業研究を通し就職活動を支援している。 ○各担任だけでなく教員間で情報共有し、相談に適切に対応できるよう努めている。 ○本年度から日本学生支援機構の奨学金の対象が多子世帯に拡大されたことから、その周知を図るとともに、授業料減免の規定により遺漏ないように対応している。 ○保健室の設置、年度当初の健康診断、学校医との連携に加え、カウンセラーを配置し、相談に対応するなど適切に対応している。 ○紙媒体や学内への掲示のほか、随時一斉メール等により情報提供している。 ○自治会活動やクラブ活動において担当教員を選定し、適切に支援している。 ○必要に応じて保護者と連絡を取り、本人にとってより良い方へ向かうよう務めている。 ○学生とコミュニケーションを取りながら状況把握に努め、支援が必要な学生については教員間で情報共有を図り、きめ細かな支援に繋げている。
学校関係者意見・提案
<ul style="list-style-type: none"> ○今回のアンケート結果から、教職員の丁寧な指導体制と、学生一人ひとりに寄り添う姿勢が学校全体に浸透していることを強く感じた。特に、公平な対応や相談体制、充実した設備環境に対する評価が高く、学生・保護者双方からの信頼の厚さがうかがえた。 ○学生がインターンシップで会社に来るが、学生側からの会社がどう見えていたなど、今後の人材育成の参考にしたいのでフィードバックが欲しい。また、事前に何を体験したいのか、学びたいのか教えてもらえると充実したインターンシップになると思う。 ○一斉メール等の連絡手段を活用し、保護者や学生に対する迅速で丁寧な支援が行われている。学校と家庭の連携が円滑に図られている点は大変良い取り組みであり、今後も継続してほしい。

【6. 教育環境】

評価平均：3.6

現状の取組及び自己評価
<p>○設備は計画的に更新をできるように、予算要求を行い教育上の必要性に応えることとしている。本年度は、情報システムやAV機器の更新、ワックス加工室の加工機・備品等の整備、圧延機や線引き機等の更新を行った。</p> <p>○実習環境は現在のカリキュラムに対応できるよう整備されており、計画的に設備の更新を行っている。また、本年度は共有工具等の整備、整頓を行い学生が利用しやすい環境整備に努めている。</p> <p>○図書室書籍の整理を進め、学生の利便性向上に貢献している。</p> <p>○教室は申請により授業外に開放しているほか、交流スペースではインターネット接続が可能な環境が整備されているなど、自主的な学修をサポートしている。</p>
学校関係者意見・提案
<p>○夜間や放課後に教室が利用できないとの声も一部で耳にする。働き方改革の観点から教職員の負担軽減や労務管理への配慮は極めて重要であり、十分に尊重されるべき事項であるが、専門技能の習得においては、自主的に学びたい、技術を磨きたいと考える学生に対し、可能な範囲で柔軟な学習環境を整備することもまた重要であるとする。働き方改革と学習機会の確保の双方を両立させる工夫が、今後の課題の一つではないか。</p> <p>○一部、情報発信や設備運用面など改善の余地は見受けられる。</p> <p>○教育環境については、学生・保護者から高い評価を得ていると感じる。施設・設備の維持更新は教育活動に直結する要素であるため、今後も計画的な整備を継続し、より良い学習環境の提供に努められたい。</p>

【7. 学生募集】

評価平均：3.5

現状の取組及び自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ、インスタグラム、学校案内、募集要項などにより広く情報提供するとともに、オープンキャンパスや学校訪問などにより周知を行っている。 ○担当職員（高校教員 0B）が学校訪問を実施し、本校の実績等の情報を提供するほか、各学校の合同説明会に参加するなど、情報の提供を行っている。 ○全国のデザイン系、美術系、総合学科の高校（約700校）へ学校案内等を送付しているほか、長野県・静岡県の高校へは随時イベント等の情報提供に加え、本年度は、東京都立の美術・デザイン系学科を持つ高校を訪問し募集活動を行った。 ○（学校案内は）学習の流れから講師陣、施設設備、ライフスタイルなど、学生が必要とする情報を毎年工夫しながら掲載している。 ○本年度は、実技体験を含むオープンキャンパス5回、リモート説明会2回、各高校主催の進学相談会への参加、個別の学校訪問などにより、本校受験の契機となるよう努めた。3月にもオープンキャンパス等を予定している。 ○資格取得等の情報は学校案内や募集要項に記載するとともに、オープンキャンパスを初めとする募集活動において情報提供している。 ○（オープンキャンパスは）高校の進路指導の時期等を勘案する中で、実施可能な回数を設定している。
学校関係者意見・提案
<ul style="list-style-type: none"> ○多様な手段を用いて学校の情報を発信し、また、形式を工夫したオープンスクールを実施することで、学校の魅力を地域に向けて積極的に伝えている点は大いに評価できる。学生募集に対する真摯な取り組みとして、今後も継続してほしい。 ○様々な機会、媒体を活用するとともに、学校を訪問するなど学生募集に取り組んでおり、令和8年度も定員を上回る入学者を確保した。

【8. 法令等の遵守】

評価平均：3.8

現状の取組及び自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ○関係法令、専修学校設置基準等を遵守し学校運営を行っている。 ○個人情報保護に関する法令等を教職員へ周知し、遵守し対応している。 ○自己評価を実施し、結果をホームページで公表している。 ○外部関係者による学校関係者評価を実施している。
学校関係者意見・提案
<ul style="list-style-type: none"> ○法令を適切に遵守しながら教育活動を進めている姿勢は、学校として非常に重要であり、信頼性の礎となるものである。引き続き、教育現場に求められるコンプライアンス意識を高く保ち、慎重な学校運営を期待する。

現状の取組及び自己評価
<p>○韃祭りや宝美祭への地域商店街代表、地元百貨店の代表、山梨中央銀行の代表、ジュエリー協会・水晶美術彫刻組合の代表、甲府商工会議所などからの参加などがあった。</p> <p>○山梨中央銀行本店北側の展示スペースに展示をするなどの取り組みを行っている。</p> <p>○高校の学校見学の際に活用すると共に、個別に見学を希望される方に交流スペースを解放している。</p> <p>○募集案内を掲示するとともに、授業内でもボランティア活動への参加が企業へのアピールにつながることを伝え、取組を奨励している。また、ボランティア活動による欠席については公欠として扱うなど、活動しやすい環境づくりにも努めている。</p>
学校関係者意見・提案
<p>○韃祭りなどへ参加すると、教員と学生の友好的関係性が感じられる。Y J Fにおける学生の展示、中銀北の展示も学生のモチベーションアップにつながる「試み」として継続してもらいたい。</p> <p>○ボランティア活動については掲示等で周知しているものの、参加が伸び悩む状況は理解できる。学生の関心を高めるため、活動内容の紹介方法の工夫や、参加しやすい環境づくりが今後の検討課題となるのではないか。</p>